

福祉社会専攻＜カリキュラム・マップ＞

科目名	到達目標	科目概要	DP 1	DP 6	DP 2 / 7	DP 3 / 8	DP 4 / 9	DP 5 / 10
			専門知識	専門知識	読解力	表現力	実践能力	研究力
			社会福祉分野に関する必要な専門知識を有する	地域づくり分野に関する必要な専門知識を有する	内外の先行研究を正確に読み取ることができる	文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる	職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる	自発的に研究課題を設定し、計画的に研究を遂行できる
専門共通科目								
福祉社会研究法Ⅰ	研究のデザインをはじめ、データ収集の技法、各種の方法論的アプローチ、データの分析法、さらに論文作成の手法などについて理解する。	福祉社会の研究法を学ぶ。	○	○	○		○	○
	研究仮説に応じて適切なデータ解析技法を適用でき、そうした技法が算出する統計量を適切に解釈できるようになる。	統計学と基本的な多変量解析法を中心として統計解析用パソコンソフトウェアを利用しながら文系のためのデータ解析技法を学ぶ。	○	○	○		○	
	「福祉サイド」および「まちづくり・地域創生サイド」の両アプローチを念頭に置いた諸問題を様々な専門領域に照らして理解する。	地域共生社会の推進に向けた動向を学ぶ。	○	○	○		○	
	社会福祉学に関わる原理・思想・歴史・政策などに関して、近年発表された論文を素材にして、現在の社会福祉が検討すべき論点の理解を深める。	社会福祉学の論点を検討する。	○	○	○		○	
専門展開科目（ソーシャルワーク系）								
ソーシャルワーク特論Ⅰ	福祉臨床の現場実践の中でソーシャルワークの臨床力を実践することのできる力量の涵養を目標とする。	ソーシャルワークの基盤となる援助実践の原則と展開方法について Life の視点から考える。	○		○		○	
ソーシャルワーク特論Ⅱ	ソーシャルワークにおけるソーシャルアクションが説明できる。ソーシャルアクションの活動計画を策定できる。	社会的に不利な立場の人びとの権利の実現を目的に、主に法制度の改廃や創設等から、排除構造等の変革を目指すソーシャルワークにおけるソーシャルアクションについて学ぶ。	○		○		○	
ソーシャルワーク理論研究特論	ソーシャルワークの発展過程において、援助の視点、方法、目標がどのように変遷してきたのかについて説明できる。その各実践モデルの特徴について説明できる。	ソーシャルワークの視点と実践モデルを学ぶ。	○		○		○	
ソーシャルワーク実践研究特論	具体のソーシャルワークの実践・活動について、理論を用いて捉え、説明し直すことにより客観化をはかり、今後の活動や研究を続ける道筋への示唆を得る。	多様な領域で行われるソーシャルワークについて、その内容や方法、経過、成果を考察、ミクロからマクロまでのソーシャルワーク理論や周辺領域諸理論を研究する。	○		○		○	
ソーシャルワーク・スーパービジョン	専門職として、自らの実践を振り返り省察することにより、スーパービジョンを含む実践力の質を向上していく。	専門職として、ソーシャルワーク実践を言語化・文章化できるよう学習し、そのうえで実践者としての支援のあり方を省察できるよう、スーパービジョンの実際を学習し、そのスキルを向上していく。				○	○	
地域福祉特論	コミュニティソーシャルワークの理論の内容や一連のスキルを説明できる。自らの事例について、アセスメントからフプランニングを適切に設計できる。	地域福祉の実践方法論、特に地域を基盤としたコミュニティソーシャルワークについて、その概念、関連する理論、今日的意義を理解し、事例演習により修得する。	○	○	○		○	
児童福祉特論	子どもと家庭がおかれている現状を把握する。子ども家庭福祉、教育とそれに関連する研究論文を読み解き、学際的な検討を行う。	文献の検討を通して、広く社会構造の中で子ども・家族をとらえ直し、その求められる役割と機能等について社会福祉の立場から考察を深める。			○		○	
高齢者福祉特論	老いの文化論、老年社会学、高齢者福祉論などに関する研究論文や実践事例を取り上げ、高齢者福祉研究のあり方を展望する。	高齢者福祉関連分野の研究を通して、老いをめぐる諸説を整理し、その特質を理解する。さらに、高齢者福祉研究方法論の再構築を試みる。	○		○		○	
障害者福祉特論	障害者雇用促進法と障害者雇用率制度、就労支援に関わる社会資源や制度、障害者雇用の現場での合理的配慮提供についてその実際を理解する。	障害者雇用の現状を把握し、障害者雇用率制度や就労支援に関する諸制度を理解し、雇用現場における合理的配慮について考察する。	○		○		○	
精神保健福祉特論	障害者雇用促進法と障害者雇用率制度、就労支援に関わる社会資源や制度、障害者雇用の現場での合理的配慮提供についてその実際を理解する。	精神障害者の障害者雇用の現状を把握し、障害者雇用率制度や就労支援、地域での生活支援の諸制度を理解し、雇用現場における合理的配慮について考察する。	○		○		○	
生活問題特論	1990年代以降の生活困窮者支援現場の動向、社会変動を表す各種指標を理解できる。社会運動の可能性と限界や政策決定の現場での力学について知る。	生活困窮者支援の経緯と現状、課題を学ぶ。生活困窮者自立支援法の施行を通して、ある問題が社会問題として認知され、政策決定に至る過程を実践的に学ぶ。	○	○	○		○	
社会リハビリテーション特論	リハビリテーションの哲学と科学について説明できる。リハビリテーションの研究課題を論じ、解決すべき研究課題について適切な研究計画を立てることができる。	リハビリテーションの哲学、歴史、領域、制度、実践を踏まえ、国際的な視点から最先端の研究について学ぶ。	○		○		○	
専門展開科目（システム・マネジメント系）								
ソーシャルポリシー特論	社会参加・自立支援施策に関する先行研究を批判的に検討し、到達点を整理することができる。	日本の所得保障と対人援助のシステムについて、アジア諸国との比較をもとに検討する。	○		○		○	
保健医療福祉システム特論	保健医療福祉システムの歴史と発展過程を日本社会背景や学習する院生の身近な事象と関連付けながら理解し、今後の研究や実践行動に生かす。	保健医療福祉システムを世界と日本の社会背景と関連づけながら、政策および制度が誕生していく過程をグループワークを通しながら学習する。	○		○		○	
ケアマネジメント特論	ケアマネジメントの理解について準備状態を明らかにし、その上で各自の研究に必要な基礎的な理論と実践現場における実態や課題について習得する。	ケアマネジメントに関する基礎的な理解と共に各自の研究テーマに必要な基礎的理論や実践現場における実態や課題について深めている。	○		○		○	
福祉経営特論	規制業種としての福祉経営の特殊性、非営利経営論と社会福祉法人、非営利経営の中心課題である財務管理・品質管理について、それぞれ理解する。	営利企業の経営とは異なる社会福祉法人の経営行動モデルの考え方を学ぶ。	○		○		○	

科目名	到達目標	科目概要	DP1	DP6	DP2/7	DP3/8	DP4/9	DP5/10
			専門知識	専門知識	読解力	表現力	実践能力	研究力
			社会福祉分野に関する必要な専門知識を有する	地域づくり分野に関する必要な専門知識を有する	内外の先行研究を正確に読み取ることができる	文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる	職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行える	自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる
専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）								
ソーシャル・イノベーション特論（2024年度以降入学者）／地域経営特論（2023年度以前入学者）	CSR経営やソーシャルビジネスのグローバル／ローカルな潮流を理解し、事業（business）とコミュニティの関係を把握する力を身につける。	コミュニティとビジネスの関係を理解するために、社会的に責任ある経営の国内外の基礎理論を読み、また国内外の様々な事例分析を通して、地域経営に求められる課題を検討する。		○	○		○	
住宅政策特論（2024年度以降入学者）／都市・住宅政策特論（2023年度以前入学者）	わが国の居住実態や空き家問題に注目しながら、住宅政策立案の歴史的な背景と政策内容の変遷と課題について理解できる。	生活の基盤となり、社会福祉とも深い関わりを持つ住宅について、住宅政策が歴史的にどのように取り組まれてきたのかを、海外比較をまじえながら考察する		○	○		○	
内発的農村発展特論（2024年度以降入学者）／地域空間学特論（2023年度以前入学者）	地域空間の背景にある農山村地域の社会構造や経済構造を読み解くための分析視点と再構築に向けた実践事例を理解することができる。	人口減少局面が先んじて発現している農山村地域は、多くの課題に直面しながらも、各地で地域づくり活動が発達するフロンティア地域であり、地域再生の手段とアプローチを学ぶ。		○	○		○	
地域文化と教育特論（2024年度以降入学者）／地域マネジメント特論（2023年度以前入学者）	市民一人ひとりが文化を楽しむ学ぶことで地域がつくられていく道筋について学ぶことができる。	地域づくりに文化と教育が果たす役割について、これまでの歴史を振り返りながら、文献および各地の事例から考える。		○	○		○	
環境社会学特論（2024年度以降入学者）／地域環境特論（2023年度以前入学者）	地域の環境政策や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法的立場を明確にしたうえで、有効性のある政策論を構想する力を身につける。	環境社会学・地域社会学の方法論を使って、地元住民の立場からの環境問題の解決や地域づくり、地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想する。		○	○		○	
障害と開発特論（2024年度以降入学者）／アジア地域開発特論（2023年度以前入学者）	アジアにおける福祉社会に関連した課題や最新動向を知り、具体的な理論・実践力を身につける。	アジアにおける地域開発について理論と実践を交えて考察し、福祉社会の形成に関わる最先端を学ぶ。	○	○	○		○	
専門展開科目（研究基盤）								
実用英語講読	英語の文章を辞書に頼らず読めるようにする。	福祉系、心理系、地域系を含む様々な話題を取り上げ、総合的に英語の読解力を向上させることを主眼とする。			○	○		
学術英語	各専門領域の英語の論文、専門書を読解し研究に反映させる方法を習得する。英語で論文の概要や発表の要旨を作成するスキルを習得する。	英語論文、専門書、報告書等の批判的読解。論文投稿や学会発表用のライティング。			○	○		
データ分析法	R言語を用いて演算スクリプトを書けるようになる。多変量解析の諸技法に関する理解を深め、統計量を適切に解釈できるようになる。	R言語（統計解析ソフトウェア）を用いてミニチュアデータを分析し、多変量解析の基礎的技法と最新の技法を詳しく学ぶ。	○	○	○		○	
演習科目								
論文研究演習Ⅰ	研究テーマの設定、先行研究のレビューや適切な研究方法の選定等、研究デザインを構築する。	各自の関心テーマに沿いつつ、修士論文を構想する。	○	○	○	○		○
論文研究演習Ⅱ	1年次にデザインした研究構想に基づき、修士論文の構成を練り上げて論文をとりまとめる。	修士論文の執筆に向けた論文の構成を学ぶ。	○	○	○	○		○
実践研究演習Ⅰ	研究テーマに即した社会調査を実践し、研究活動を自ら遂行する基礎を身につける。	具体的な調査や実践を通して、論文執筆に必要な調査データの収集を行う。	○	○		○	○	○
実践研究演習Ⅱ	研究テーマに即した調査対象を選定し、質的調査の手法を用いながら、データを分析できるようにする。	修士論文執筆に必要な定性的な情報を集める技法を学びつつ、データ分析を行っていく。	○	○		○	○	○